

鹿児島県薩摩半島西岸から得られた九州初記録のハゼ垂目魚類 8 種

藤原恭司¹・鈴木寿之²・本村浩之³

¹ 〒 890-0065 鹿児島市郡元 1-21-24 鹿児島大学大学院連合農学研究所

² 〒 546-0034 大阪市東住吉区長居公園 1-23 大阪市立自然史博物館

³ 〒 890-0065 鹿児島市郡元 1-21-30 鹿児島大学総合研究博物館

はじめに

ハゼ垂目魚類はツバサハゼ科、ドンコ科、カワアナゴ科、ヤナギハゼ科、ハゼ科、スナハゼ科、オオメワラスボ科、クロユリハゼ科、およびシラスウオ科の 9 科を含み (明仁ほか, 2013), 主に小型魚類で構成されるグループである。

鹿児島県薩摩半島西岸における魚類相調査で採集されたハゼ垂目魚類標本を調査したところ、本垂目 8 種の標本について、形態や色彩からミドリハゼ *Eviota toshiyuki* Greenfield and Randall, 2010, セホシサンカクハゼ *Fusigobius duospilus* Hoese and Reader, 1985, オオモンハゼ *Gnatholepis anjerenensis* (Bleeker, 1851), スケロクウミタケハゼ *Pleurosicya boldinghi* Weber, 1913, アカスジウミタケハゼ *Pleurosicya micheli* Fourmanoir, 1971, アワセイソハゼ *Sueviota lachneri* Winterbottom and Hoese, 1988, オグロクロユリハゼ *Ptereleotris heteroptera* (Bleeker, 1855), およびイトマンクロユリハゼ *Ptereleotris microlepis* (Bleeker, 1856) に同定された。これらの種は過去の国内における記録を網羅した明仁ほか (2013) や近年、九州沿岸の魚類を扱った図鑑や目録 [岩坪ほか (2016) (鹿児島県薩摩半島南岸), Iwatsuki et al. (2017) (九

州東岸), 岩坪・本村 (2017) (鹿児島湾), 小枝ほか (2018) (鹿児島県大隅半島東岸), および村瀬ほか (2019) (宮崎県)] にも掲載されておらず、九州からの初記録となるためここに報告する。

材料と方法

標本の作製, 登録, 撮影, および固定方法は本村 (2009) に準拠した。標準体長は体長または SL と表記した。計測はデジタルノギスを用いて 0.1 mm 単位まで行った。胸鰭, 腹鰭, および頭部感覚孔の観察にはサイアニンプルーを用いた。頭部感覚器官の名称, およびハゼ垂目内の科レベルの分類については明仁ほか (2013) にしたがひ、科内では各種をアルファベット順に掲載した。本報告に用いた標本 (全て鹿児島県南さつま市産) と生鮮時の写真は鹿児島大学総合研究博物館 (KAUM) に所蔵されており、詳細な採集データはリスト中の「標本」の項目を参照。

九州初記録のハゼ垂目 8 種

ハゼ科 Gobiidae

Eviota toshiyuki Greenfield and Randall, 2010

ミドリハゼ (Fig. 1A)

標本 KAUM-I. 124343, 体長 17.3 mm, 笠沙町片浦 (31°26'04"N, 130°09'17"E), 水深 15 m, 2018 年 12 月 16 日, 手網, 藤原恭司。

同定 薩摩半島西岸から得られた標本は, 第 2 背鰭軟条数が 9, 臀鰭軟条数が 8, 胸鰭下半部の軟条が分枝する, 腹鰭軟条数が 4 で, 鰭膜は発達しない, 腹鰭第 4 軟条は 5 本の分枝をもつ, 体高の体長に占める割合が 19.8%, 前眼肩胛管に開

Fujiwara, K., T. Suzuki and H. Motomura. 2019. First Kyushu records of eight species of Gobiidae from the western coast of Satsuma Peninsula, Kagoshima Prefecture, Japan. *Nature of Kagoshima* 45: 405-410.

✉ KF: the United Graduate School of Agricultural Sciences, Kagoshima University, 1-21-24 Korimoto, Kagoshima 890-0065, Japan (e-mail: kyojifujiwara627@yahoo.co.jp).

Published online: 3 May 2019

http://journal.kagoshima-nature.org/archives/NK_045/045-070.pdf

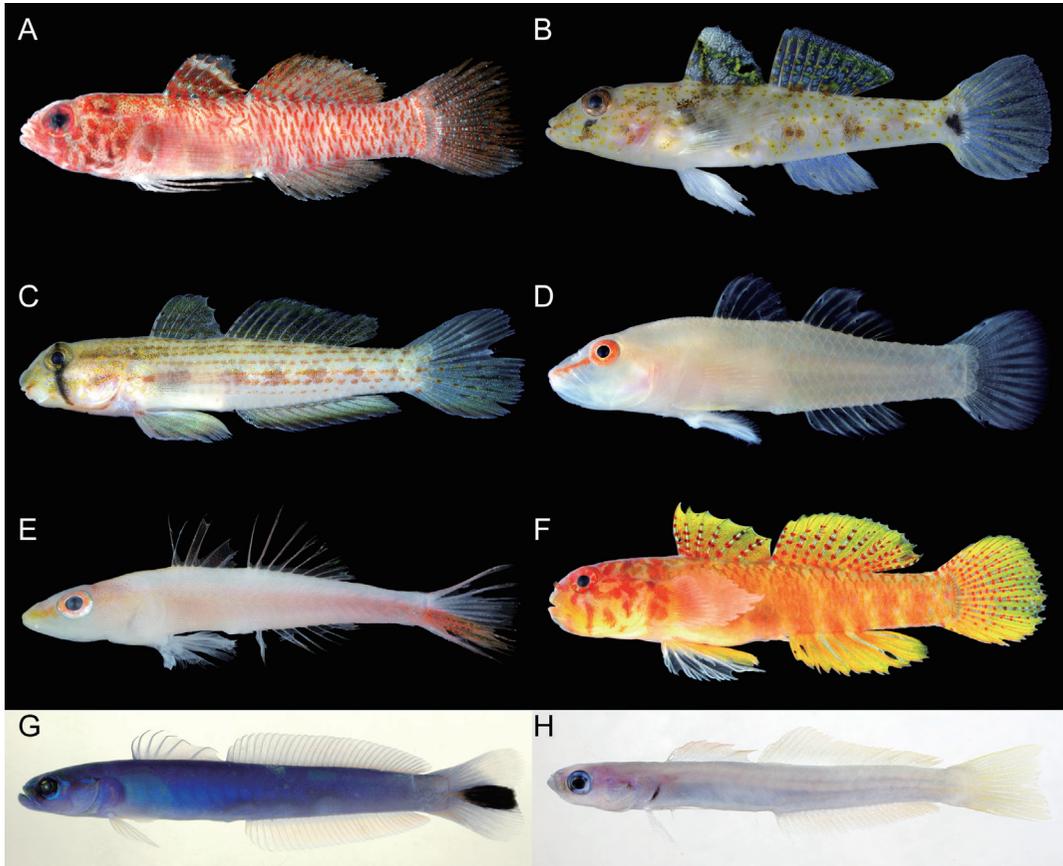


Fig. 1. Gobioid fishes of the west coast of Satsuma Peninsula (Minami-satsuma, Kagoshima Prefecture, Japan). A, *Eviota toshiyuki*, KAUM-I. 124343, 17.3 mm SL; B, *Fusigobius duospilus*, KAUM-I. 129618, 43.2 mm SL; C, *Gnatholepis anjerensis*, KAUM-I. 124486, 26.1 mm SL; D, *Pleurosicya boldinghi*, KAUM-I. 129611, 25.8 mm SL; E, *Pleurosicya micheli*, KAUM-I. 128667, 17.5 mm SL; F, *Sueviota lachneri*, KAUM-I. 129541, 25.6 mm SL; G, *Ptereleotris heteroptera*, KAUM-I. 124480, 72.0 mm SL; H, *Ptereleotris microlepis*, KAUM-I. 128502, 44.9 mm SL.

孔 B', C(S), D(S), E, F' がある, 前鰓蓋管に開孔 N' および O' がある, 項部に黒色斑がない, 胸鰭基部に赤色斑が 2 つある, および臀鰭基部に体側からのびる赤色斑が 2 つあることなどの特徴が明仁ほか (2013), Greenfield and Randall (2010), および Greenfield and Winterbottom (2016) が示した *Eviota toshiyuki* の特徴とよく一致したため本種に同定された。

分布 ミドリハゼは日本固有種で, 伊豆諸島, 和歌山県串本, 高知県の柏島, 大隅諸島 (竹島・硫黄島・口永良部島・屋久島), 奄美群島 (奄美大島・徳之島・与論島), 南大東島, および小笠原諸島から記録されている (明仁ほか, 2013; 本村ほか 2013; 木村ほか 2017; Mochida and Moto-

mura, 2018; Nakae et al., 2018; 萩原, 2019a)。本研究では薩摩半島西岸から 1 標本が得られ本種の分布が確認された。

備考 Greenfield and Randall (2010) は *Eviota toshiyuki* の特徴の一つとして, 尾柄部後方の中央部皮下に黒色斑があるとしたが, 本研究で観察した KAUM-I. 124343 はその特徴がやや不明瞭であった (Fig. 1A)。しかし, その他の特徴はよく一致したため, この相違は個体変異であると判断した。薩摩半島西岸から得られたミドリハゼの標本は本種の九州沿岸からの初記録となる。

Fusigobius duospilus Hoese and Reader, 1985
セホシサンカクハゼ (Fig. 1B)

標本 15 個体 (体長 14.4–43.2 mm) : KAUM-I. 124300, 体長 38.5 mm, KAUM-I. 124311, 体長 34.9 mm, KAUM-I. 124353, 体長 36.4 mm, KAUM-I. 124359, 体長 32.6 mm, KAUM-I. 124360, 体長 35.9 mm, KAUM-I. 124373, 体長 14.4 mm, 笠沙町片浦 (31°26′04″N, 130°09′17″E), 水深 10–16 m, 2018 年 12 月 16 日, 手網, 山田守彦 ほか; KAUM-I. 124397, 体長 41.0 mm, KAUM-I. 124401, 体長 32.9 mm, KAUM-I. 124422, 体長 41.8 mm, 笠沙町片浦米島南方 (31°25′55″N, 130°07′19″E), 水深 6–15 m, 2018 年 12 月 16 日, 手網, 山田守彦 ほか; KAUM-I. 124531, 体長 40.1 mm, KAUM-I. 124532, 体長 21.8 mm, KAUM-I. 124533, 体長 18.4 mm, 坊津町塩ヶ浦沖 (31°15′20″N, 130°13′59″E), 水深 6–15 m, 2018 年 12 月 17 日, 手網, 松岡 翠 ほか; KAUM-I. 128404, 体長 31.9 mm, KAUM-I. 128410, 体長 28.7 mm, 坊津町塩ヶ浦沖 (31°15′20″N, 130°13′59″E), 水深 6–15 m, 2019 年 3 月 4 日, 手網, 藤原恭司; KAUM-I. 129618, 体長 43.2 mm, 笠沙町片浦米島東方 (31°26′00″N, 130°07′20″E), 水深 7–10 m, 2019 年 4 月 14 日, 手網, 森下悟至.

同定 薩摩半島西岸から得られた標本は, 腹鰭癒合膜が浅く切れ込む, 腹鰭膜蓋の発達が悪い, 主鰓蓋骨が無鱗, 体側に淡い黄色または褐色小斑がある, 胸鰭基部上方に黒色斑がない, および第 1 背鰭前方に 1 黒色垂線, その直後に 1 黒色斑があることなどの特徴が Randall (2001) と明仁ほか (2013) が示した *Fusigobius duospilus* (*Coryphopterus duospilus*) の特徴とよく一致したため本種に同定された.

分布 セホシサンカクハゼはインド・太平洋に広く分布し, 日本国内からは伊豆諸島, 静岡県, 三重県, 和歌山県, 愛媛県, および高知県の太平洋沿岸, 大隅諸島 (竹島・硫黄島・口永良部島・屋久島), 奄美群島 (奄美大島・徳之島・沖永良部島・与論島), 慶良間諸島の渡嘉敷島, 八重山諸島の西表島, および小笠原諸島から記録されている (鈴木ほか 2004; 渡井ほか 2009; 明仁ほか, 2013; 本村ほか 2013; 木村ほか 2017; Mochida

and Motomura, 2018; Nakae et al., 2018; 萩原, 2019a). 本研究では薩摩半島西岸から 15 標本が得られ本種の分布が確認された.

備考 本種の帰属は明仁ほか (2013) にしたがった. 薩摩半島西岸から得られたセホシサンカクハゼの標本は本種の九州沿岸からの初記録となる.

Gnatholepis anjerensis (Bleeker, 1851)

オオモンハゼ (Fig. 1C)

標本 5 個体 (体長 12.3–26.6 mm) : KAUM-I. 124374, 体長 12.3 mm, KAUM-I. 124384, 体長 18.1 mm, 笠沙町片浦 (31°26′04″N, 130°09′17″E), 水深 10–16 m, 2018 年 12 月 16 日, 手網, 山田守彦 ほか; KAUM-I. 124402, 体長 26.6 mm, KAUM-I. 124486, 体長 26.1 mm, 笠沙町片浦米島南方 (31°25′55″N, 130°07′19″E), 水深 6–14 m, 2018 年 12 月 16 日, 手網, 藤原恭司; KAUM-I. 128408, 体長 19.3 mm, 坊津町塩ヶ浦沖 (31°15′20″N, 130°13′59″E), 水深 6–15 m, 2019 年 3 月 4 日, 手網, 山田守彦 ほか.

同定 薩摩半島西岸から得られた標本は, 口角部に皮状突起がある, 下顎前方にやや大きい犬歯状歯がある, 背鰭前方鱗が櫛鱗 (前縁を除く), 第 1 背鰭に黒色斑がない, 胸鰭基部上方に黒色で縁取られた黄色斑がない, 臀鰭が黄色みを帯びた灰色で, 斑紋がない, 体側中央に円形の黒色斑があることなどの特徴が Larson and Buckle (2012) と明仁ほか (2013) が示した *Gnatholepis anjerensis* の特徴とよく一致したため本種に同定された.

分布 オオモンハゼはインド・太平洋に広く分布し, 日本国内からは伊豆諸島の八丈島, 静岡県, 和歌山県, および高知県の太平洋沿岸, 大隅諸島 (硫黄島・屋久島), 奄美群島 (徳之島・与論島), 慶良間諸島の渡嘉敷島, および八重山諸島の西表島から記録されている (鈴木ほか 2004; 渡井ほか 2009; 明仁ほか, 2013; 本村ほか 2013; Mochida and Motomura, 2018; 萩原, 2019a). 本研究では薩摩半島西岸から 5 標本が得られ本種の分布が確認された.

備考 薩摩半島西岸から得られたオオモンハゼ

の標本は本種の九州沿岸からの初記録となる。

***Pleurosicya boldinghi* Weber, 1913**

スケロクウミタケハゼ (Fig. 1D)

標本 KAUM-I. 129611, 体長 25.8 mm, 笠沙町片浦米島東方 (31°26'00"N, 130°07'20"E), 水深 20–26 m, 2019 年 4 月 14 日, 手網, 山田守彦。

同定 薩摩半島西岸から得られた標本は, 第 2 背鰭軟条数が 7, 胸鰭軟条数が 19, 上唇が頭部と連続しない, 下顎外列歯の長さが中庸で, 側方に伸長しない, 頭部背面が被鱗する, 前眼肩胛管に開孔 B', C(S), D(S), E, F, G' がある, 前鰓蓋管に開孔 M', N および O' がある, 上顎先端から眼前縁にかけて赤色斜帯がある, 臀鰭から尾鰭基部にかけての腹側下面に黒色斑がない, および各鰭が白色透明であることなどの特徴が Larson (1990) と明仁ほか (2013) が示した *Pleurosicya boldinghi* の特徴とよく一致したため本種に同定された。

分布 スケロクウミタケハゼはインド・西太平洋に分布し, 日本国内からは伊豆諸島 (伊豆大島・八丈島), 千葉県, 静岡県, 和歌山県, 愛媛県, および高知県の太平洋沿岸, 沖縄諸島の久米島, 慶良間諸島の渡嘉敷島, および八重山諸島の西表島から記録されている (鈴木ほか 2004; 明仁ほか, 2013)。本研究では薩摩半島西岸から 1 標本が得られ本種の分布が確認された。

備考 観察標本の個体と同時に同属他種のセボシウミタケハゼ *Pleurosicya mossambica* Smith, 1959 (KAUM-I. 129612) も採集された。薩摩半島西岸から得られたオオモンハゼの標本は本種の九州沿岸からの初記録となる。

***Pleurosicya micheli* Fourmanoir, 1971**

アカスジウミタケハゼ (Fig. 1E)

標本 3 個体 (体長 15.1–17.5 mm) : KAUM-I. 128666, 体長 15.1 mm, KAUM-I. 128667, 体長 17.5 mm, KAUM-I. 128668, 体長 15.7 mm, 笠沙町片浦 (31°25'40"N, 130°08'50"E), 水深 8 m,

2019 年 3 月 6 日, 手網, 藤原恭司。

同定 薩摩半島西岸から得られた標本は, 第 2 背鰭軟条数が 8, 体が細長い, 頭部断面が三角形, 上唇が頭部と連続しない, 下顎外列歯の長さが中庸で, 側方に伸長しない, 下顎葉歯先端が後方に曲がらない, 両眼間隔が狭い, 頭部背面が被鱗する, 前眼肩胛管に開孔 B', C(S), D(S), E, F, G' がある, 前鰓蓋管に開孔 M', N および O' がある, 第 1 背鰭に黒色斑がない, および尾鰭下半部の全域が赤色であることなどの特徴が Larson (1990) と明仁ほか (2013) が示した *Pleurosicya micheli* の特徴とよく一致したため本種に同定された。

分布 アカスジウミタケハゼはインド・太平洋に分布し, 日本国内からは伊豆諸島の八丈島, 静岡県, 愛媛県, および高知県の太平洋沿岸, 大隅諸島の屋久島, 奄美大島, および八重山諸島の西表島から記録されている (鈴木ほか 2004; 明仁ほか, 2013; Nakae et al., 2018; 萩原, 2019a)。本研究では薩摩半島西岸から 3 標本が得られ本種の分布が確認された。

備考 観察標本の個体は葉状イシサンゴ類に着生しているところを採集された。本個体と同時に同属他種のセボシウミタケハゼ (KAUM-I. 128657) も採集された。薩摩半島西岸から得られたアカスジウミタケハゼの標本は本種の九州沿岸からの初記録となる。

***Sueviota lachneri* Winterbottom and Hoese, 1988**

アフセイソハゼ (Fig. 1F)

標本 10 個体 (体長 11.6–25.6 mm) : KAUM-I. 124371, 体長 18.7 mm, KAUM-I. 124380, 体長 17.0 mm, KAUM-I. 124392, 体長 14.4 mm, KAUM-I. 124393, 体長 20.3 mm, 笠沙町片浦 (31°26'04"N, 130°09'17"E), 水深 10–16 m, 2018 年 12 月 16 日, 手網, 山田守彦ほか; KAUM-I. 128664, 体長 16.4 mm, KAUM-I. 128665, 体長 11.6 mm, 笠沙町片浦 (31°25'40"N, 130°08'50"E), 水深 8 m, 2019 年 3 月 6 日, 手網, 藤原恭司; KAUM-I. 129541, 体長 25.6 mm, KAUM-I. 129623, 体長 18.5 mm, KAUM-I. 129624, 体長

15.7 mm, KAUM-I. 129625, 体長 13.6 mm, 笠沙町片浦米島東方 (31°26'00"N, 130°07'20"E), 水深 20–26 m, 2019 年 4 月 14 日, 手網, 山田守彦.

同定 薩摩半島西岸から得られた標本は, 第 2 背鰭軟条数が 9, 胸鰭下部の軟条が分枝する, 前鼻孔の大きさが中庸で, 先端が白色または淡い灰色, 左右の腹鰭が癒合膜でつながる, 腹鰭に膜蓋を欠く, 鰓孔下端が前鰓蓋後縁下部に達しない, 第 1 背鰭の第 1 棘が糸状に伸長しない, 前眼肩胛管に開孔 B', C(S), D(S), E, F' がある, 前鰓蓋管に開孔 N' および O' がある, および背鰭と尾鰭の鰭条に沿って赤色斑が密に並ぶことなどの特徴が明仁ほか (2013), Allen and Erdmann (2017), および Greenfield and Randall (2017) が示した *Sueviota lachneri* の特徴とよく一致したため本種に同定された.

分布 アワセイソハゼはモルディブ, チャゴス諸島, および西太平洋に分布し, 日本国内からは高知県の柏島, 大隅諸島 (竹島・硫黄島・屋久島), 奄美大島, 沖縄島, 八重山諸島 (石垣島・西表島), および小笠原諸島の父島から記録されている (明仁ほか, 2013; 本村ほか 2013; Nakae et al., 2018). 本研究では薩摩半島西岸から 10 標本が得られ本種の分布が確認された.

備考 薩摩半島西岸から得られたアワセイソハゼの標本は本種の九州沿岸からの初記録となる.

クロユリハゼ科 *Ptereleotridae*

Ptereleotris heteroptera (Bleeker, 1855)

オグロクロユリハゼ (Fig. 1G)

標本 KAUM-I. 124480, 体長 72.0 mm, 笠沙町片浦米島南方 (31°25'55"N, 130°07'19"E), 水深 6–14 m, 2018 年 12 月 16 日, 手網, 上野大輔.

同定 薩摩半島西岸から得られた標本は, 第 2 背鰭が 1 棘 32 軟条, 臀鰭が 1 棘 29 軟条, 体と頭が著しく側扁しない, 下唇が縫合部で左右に分かれる, 頤と峽部に肉質突起がない, 第 1 背鰭前半部の高さが低い, および尾鰭中央部に楕円形の大きな黒色斑がることなどの特徴が Randall and Hoese (1985) と明仁ほか (2013) が示した *Ptere-*

leotris heteroptera の特徴とよく一致したため本種に同定された.

分布 オグロクロユリハゼはインド・太平洋に広く分布し, 日本国内からは伊豆諸島, 千葉県, 神奈川県, 伊豆半島, 和歌山県, および高知県の太平洋沿岸, 大隅諸島の屋久島, トカラ列島の小宝島, 奄美群島 (奄美大島・与論島), 沖縄諸島の瀬底島, 八重山諸島 (西表島・与那国島), および小笠原諸島から記録されている (鈴木ほか 2004; 明仁ほか, 2013; Koeda et al., 2016; Nakae et al., 2018; 吉野・瀬能, 2018; 萩原, 2019b). 本研究では薩摩半島西岸から 1 標本が得られ本種の分布が確認された.

備考 薩摩半島西岸から得られたオグロクロユリハゼの標本は本種の九州沿岸からの初記録となる.

Ptereleotris microlepis (Bleeker, 1856)

イトマンクロユリハゼ (Fig. 1H)

標本 KAUM-I. 128502, 体長 44.9 mm, 笠沙町片浦野間岬沖 (31°24'36"N, 130°06'24"E), 水深 15 m, 2019 年 3 月 5 日, 手網, 上野大輔.

同定 薩摩半島西岸から得られた標本は, 第 2 背鰭が 1 棘 27 軟条, 臀鰭が 1 棘 26 軟条, 体と頭が著しく側扁しない, 下唇が縫合部で左右に分かれる, 頤と峽部に肉質突起がない, 第 1 背鰭前半部の高さが低い, 尾鰭上下両葉が伸長しない, 体が乳白色, 尾鰭が一様に淡い黄色みを帯びた白色, および胸鰭基底に黒色斜線があることなどの特徴が Randall and Hoese (1985) と明仁ほか (2013) が示した *Ptereleotris microlepis* の特徴とよく一致したため本種に同定された.

分布 イトマンクロユリハゼはインド・太平洋に広く分布し, 国内からは伊豆諸島 (伊豆大島・八丈島), 千葉県, 神奈川県, 伊豆半島, 和歌山県, 徳島県, および高知県の太平洋沿岸, 大隅諸島の屋久島, 奄美大島, 沖縄島, および八重山諸島の西表島から記録されている (鈴木ほか 2004; 明仁ほか, 2013; Nakae et al., 2018; 吉野・瀬能, 2018; 萩原, 2019b). 本研究では薩摩半島西岸か

ら1標本が得られ本種の分布が確認された。

備考 薩摩半島西岸から得られたイトマンクロユリハゼの標本は本種の九州沿岸からの初記録となる。

■ 謝辞

本報告を取りまとめるにあたり伊東正英氏をはじめとする笠沙町漁業協同組合の皆さま、上野大輔氏（鹿児島大学理学部）、松岡 翠氏（鹿児島大学水産学部）、出羽慎一氏（ダイビングサービスマ海案内）、山田守彦氏（いおワールドかごしま水族館）、上野浩子氏（かごしま環境未来館）、中村政則氏（海幸）、稲垣 豊氏（ダイビングステーション海来館）、および原口百合子氏をはじめとする鹿児島大学総合研究博物館ボランティアの皆さま、および同館魚類分類学研究室の皆さまには魚類の採集・標本作成にご協力いただいた。これらの方々に謹んで感謝の意を表す。本研究の一部は公益財団法人日本海事科学振興財団「海の学びミュージアムサポート」、文部科学省特別経費「薩南諸島の生物多様性とその保全に関する教育研究拠点整備」、および鹿児島大学重点領域研究環境（生物多様性・島嶼プロジェクト）学長裁量経費の援助を受けた。

■ 引用文献

- 明仁親王・坂本勝一・池田祐二・藍澤正宏. 2013. ハゼ亜目. Pp. 1347-1608, 2109-2211. 中坊徹次（編）. 日本産魚類検索 全種の同定 第三版. 東海大学出版会, 秦野.
- Allen, G. R. and M. V. Erdmann. 2017. *Sueviota tubicola*, a new species of coral-reef goby (Teleostei: Gobiidae) from Papua New Guinea. *Journal of the Ocean Science Foundation*, 25: 1-7.
- Greenfield, D. W. and J. E. Randall. 2010. Four new gobiid fishes of the genus *Eviota* from the western Pacific, with clarification of *Eviota guttata* and *Eviota albolineata* (Teleostei: Gobiidae). *Proceedings of the California Academy of Sciences*, 61: 269-289.
- Greenfield, D. W. and J. E. Randall. 2017. *Sueviota pyrios*, a new species of coral-reef dwarfgoby from the Red Sea (Teleostei: Gobiidae). *Journal of the Ocean Science Foundation*, 25: 8-13.
- Greenfield, D. W. and R. Winterbottom. 2016. A key to the dwarfgoby species (Teleostei: Gobiidae: *Eviota*) described between 1871 and 2016. *Journal of the Ocean Science Foundation*, 24: 35-90.
- 萩原清司. 2019a. ハゼ科. Pp. 335-374. 本村浩之・萩原清司・瀬能 宏・中江雅典（編）. 奄美群島の魚類図鑑. 南日本新聞開発センター, 鹿児島.
- 萩原清司. 2019b. クロユリハゼ科. Pp. 375-377. 本村浩之・萩原清司・瀬能 宏・中江雅典（編）. 奄美群島の魚類図鑑. 南日本新聞開発センター, 鹿児島.
- 岩坪洗樹・加藤 紳・本村浩之. 2016. 南九州顕娃の海水魚. 鹿児島水圏生物博物館, 枕崎・鹿児島大学総合研究博物館, 鹿児島・シーホースウェイズ, 南九州. 80 pp.
- 岩坪洗樹・本村浩之. 2017. 火山を望む甕海 鹿児島湾の魚類. 鹿児島水圏生物博物館, 鹿児島・鹿児島大学総合研究博物館, 鹿児島. 302 pp.
- Iwatsuki, Y., H. Nagino, F. Tanaka, H. Wada, K. Tanahara, M. Wada, H. Tanaka, K. Hidaka and S. Kimura. 2017. Annotated checklist of marine and freshwater fishes in the Hyuga Nada area, southwestern Japan. *The Bulletin of the Graduate School of Bioresources, Mie University*, 43: 27-55.
- 木村祐貴・日比野友亮・三木涼平・峯 健・小枝圭太. 2017. 緑の火山 口永良部島の魚類. 鹿児島大学総合研究博物館, 鹿児島. 200 pp.
- 小枝圭太・畑 晴陵・山田守彦・本村浩之. 2018. 黒潮あたる鹿児島島の海 内之浦漁港に水揚げされる魚たち. 鹿児島大学総合研究博物館, 鹿児島. 520 pp.
- Koeda, K., Y. Hibino, T. Yoshida, Y. Kimura, R. Miki, T. Kunishima, D. Sasaki, T. Furukawa, M. Sakurai, K. Eguchi, H. Suzuki, T. Inaba, T. Uejo, S. Tanaka, M. Fujisawa, H. Wada and T. Uchiyama. 2016. Annotated checklist of fishes of Yonaguni-jima island, the westernmost island in Japan. *The Kagoshima University Museum, Kagoshima*. 119 pp.
- Larson, H. K. 1990. A revision of the commensal gobiid genera *Pleurosicya* and *Luposicya* (Gobiidae), with descriptions of eight new species of *Pleurosicya* and discussion of related genera. *The Beagle, Records of the Northern Territory Museum of Arts and Sciences*, 7: 1-53.
- Larson, H. K. and D. J. Buckle. 2012. A revision of the goby genus *Gnatholepis* Bleeker (Teleostei, Gobiidae, Gobiionellinae), with description of a new species. *Zootaxa*, 3529: 1-69.
- Mochida, I. and H. Motomura. 2018. An annotated checklist of marine and freshwater fishes of Tokunoshima island in the Amami Islands, Kagoshima, southern Japan, with 202 new records. *Bulletin of the Kagoshima University Museum*, 10: 1-80.
- 本村浩之. 2009. 魚類標本の作製と管理マニュアル. 鹿児島大学総合研究博物館, 鹿児島. 70 pp.
- 本村浩之・出羽慎一・古田和彦・松浦啓一. 2013. 鹿児島県三島村一 硫黄島と竹島の魚類. 鹿児島大学総合研究博物館, 鹿児島・国立科学博物館, つくば. 390 pp.
- 村瀬敦宣・三木涼平・和田正昭・瀬能 宏. 2019. 宮崎県のさかなのまち 門川の魚図鑑. 宮崎大学農学部附属フィールド科学教育研究センター延岡フィールド, 延岡. 207 pp.
- Nakae, M., H. Motomura, K. Hagiwara, H. Senou, K. Koeda, T. Yoshida, S. Tashiro, B. Jeong, H. Hata, Y. Fukui, K. Fujiwara, T. Yamakawa, M. Aizawa, G. Shinohara and K. Matsuura. 2018. An annotated checklist of fishes of Amami-oshima Island, the Ryukyu Islands, Japan. *Memoirs of the National Museum of Nature and Science, Tokyo*, 52: 205-361.
- Randall, J. E. 2001. Five new Indo-Pacific gobiid fishes of the genus *Coryphopterus*. *Zoological Studies*, 40: 206-225.
- Randall, J. E. and D. F. Hoese. 1985. Revision of the Indo-Pacific dartfishes, genus *Ptereleotris* (Perciformes: Gobioidae). *Indo-Pacific Fishes*, 7: 1-36.
- 鈴木寿之・渋川浩一・矢野維幾・瀬能 宏. 2004. 決定版 日本のハゼ. 平凡社, 東京. 534 pp.
- 渡井幹雄・宮崎佑介・村瀬敦宣・瀬能 宏. 2009. 慶良間諸島渡嘉敷島渡嘉志久湾の魚類相. 神奈川県立博物館研究, 38: 119-132.
- 吉野雄輔・瀬能 宏. 2008. 山溪ハンディ図鑑 13 日本の海水魚. 山と溪谷社, 東京. 543 pp.